

|  |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |
|--|--|--------------------|---------------------------|----------------|-------------------------|------------------|-------------------------|
| 科目ナンバリング   |  | U-LAS70 10001 SJ50 |                           |                |                         |                  |                         |
| 授業科目名<br><英訳>  | ILASセミナー：薬と医療<br>ILAS Seminar :Pharmaceuticals and<br>Medicine |                    |                           | 担当者所属<br>職名・氏名 | 薬学研究科<br>薬学研究科<br>薬学研究科 | 准教授<br>准教授<br>講師 | 白川 久志<br>高橋 有己<br>喜多 知子 |
| 群  | 少人数群   | 単位数                | 2単位                       | 週コマ数           | 1コマ                     | 授業形態             | ゼミナール(対面授業科目)           |
| 開講年度・<br>開講期   | 2025・前期  | 受講定員<br>(1回生定員)    | 10(10)人                   | 配当学年           | 1回生                     | 対象学生             | 全学向                     |
| 曜時限  | 月5   | 教室                 | 薬学研究科建物内の教室(医・<br>薬・病院構内) |                |                         | 使用言語             | 日本語                     |
| キーワード  | 薬物の作用メカニズム / 医薬品開発 / 最先端医療 / 個別化医療                             |                    |                           |                |                         |                  |                         |
| <b>[授業の概要・目的]</b>  |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |
| 体の中での薬の動き、作用を理解し、医療における薬物治療の役割について考える。   |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |
| <b>[到達目標]</b>  |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |
| 薬の動きとその制御、働きについて理解し、医療における薬物治療の役割、有効性を理解する。また、SGD (small group discussion) を経験することで、課題に対して自主的に取り組む能力を養う。   |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |
| <b>[授業計画と内容]</b>   |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |
| 薬は体の中を動き、標的部位に到達し、そこで生体の分子と相互作用することによって効果を発揮する。本ILASセミナーでは、実際の医療現場で使われるくすりについて、自らがそれを開発する立場から、また自分が患者として使う立場から薬の動きとその制御、働きについて理解し、医療における薬物治療の役割、有効性について考える。授業は少人数のグループを単位にしたSGD (small group discussion) の演習形式で進め、各テーマ毎に発表会を実施し、学生同士で意見交換をしながら薬に関する理解を深める。授業計画は下記の通りである。 |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |
| (1) イントロダクション【1回】：白川<br>授業の進め方と準備・発表の方法を周知するとともに、医療の現状、くすりの役割、医薬品開発について概説する。   |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |
| (2) 神経疾患/神経免疫疾患の予防と治療【4回】：白川<br>超高齢社会・ストレス社会で問題となっている神経疾患/神経免疫疾患を取り上げ、現在の治療薬の作用メカニズムを踏まえた上で、将来的な予防や治療の戦略について討議する。  |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |
| (3) 薬の体内動態とその制御【4回】：高橋<br>体外から投与された薬が体内に入るまで、そして入ってから消えるまでの動き、すなわち体内動態を取り上げ、これについて概説したのち、それを制御する方法とその戦略について討議する。   |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |
| (4) 薬物療法の個別化【4回】：喜多<br>薬の有効性・安全性の個人差について概説し、個別化療法の戦略について討議する。  |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |
| (5) まとめ【1回】：喜多<br>全体を通じて学んだことを総括する。  |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |
| (6) フィードバック【1回】：高橋   |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |
| <b>[履修要件]</b>  |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |
| 特になし   |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |
| ----- ILASセミナー：薬と医療(2)へ続く -----  |  |                    |                           |                |                         |                  |                         |

## ILASセミナー：薬と医療(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点評価(コメントシートの提出、出席の状況等)(50点)、ゼミでの学習姿勢(10点)、プロダクト(40点)により評価する。

平常点評価(出席の状況30%、コメントシートの提出20%、授業中に課される課題40%)(90点)、ゼミでの学習姿勢(10点)により評価する。各項目の詳細は初回授業で説明する。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業後は復習を行うこと。口頭発表に備えて事前にテーマを決めて、自主的に資料を収集しまとめること。その他授業外学習については、各テーマの第一回の授業中に担当教員から指示する。

### [その他(オフィスアワー等)]

特定の予備知識は必要としない。化学や生物の素養も要求しない。薬に興味のある積極的な学生の受講を希望する。

オフィスアワー実施の有無はKULASISで確認すること。

### [主要授業科目(学部・学科名)]